



買場紗綾市

毎月第一土曜日に本町通りに賑わいを創出する買場紗綾市（森壽作実行委員長）は、本町一・二丁目を中心とする「重要伝統的建造物群保存地区」（以下、重伝建）の実現へ向けた構想の中から誕生したもの。文化遺産の保存・活用による地域の活性化を目的とし、平成8年（1996）3月に地元住民の有志により始められ、平成24年の重伝建指定後も継続し、天満宮古民具骨董市、桐生楽市とともに「桐生三大市」と並び称されている。

紗綾市では桐生の文化遺産を紹介しながら、約30店が出店し繊維製品や食品など桐生オリジナルの物品の売買を行っている。飾らない雰囲気と親しみやすさが人気で、毎回1,000人を超える来場者で賑わう。また、主催者による対外的なPRも積極的に行われ、回を重ねるごとに来場者を増やしてきた。

紗綾市の舞台となるのは本町一丁目から西へ向かう買場通り。明治15年（1882）に関東東北七県連合生糸織物共進会（以下、共進会）が開催され、その会場跡地は翌年から物産売買所となり、「買場」と呼ばれる上市場が定期的に開かれた。その由来から桐生商工業発祥の地とされ、記念の碑が建てられている。

しかしながら、平成28年（2016）6月、紗綾市の中心施設で交流の場「買場ふれあい館」が火災により全焼。この木造平屋建ての長屋は、共進会の会場の一つとして使用されるなど歴史的価値も高く、重伝建のシンボルの焼失は、紗綾市の関係者だけでなくまち全体に大きなショックを与えた。

「紗綾市を訪れるお客さんのためにも、『中止』は全く考えなかった」と森委員長。翌月には会場を分散して開催、その後は、四辻の斎嘉（東久方町）に会場に定め、今ではふれあい館の焼失前以上の賑わいを取り戻している。

主催者や出店者の情熱、地域の温かい支援、そして紗綾市を訪れるお客さんの愛情が背中を押し、復活を遂げた紗綾市。最近では第一土曜日に合わせて、まちなかに新たにイベントが生まれるなど、その賑わいはまち全体に波及している。

拠点焼失から復活
まち全体に波及するにぎわいの起点

- 開催／毎月第一土曜日 10：00～15：00
- 場所／桐生市東久方町2-1-45（四辻の斎嘉）
- 問合せ／買場紗綾市実行委員会（電話 0277-22-2001）
- HP／<http://www.kiryu.co.jp/kaiba/>